



「『私は日本人です』とは言うものの、果たして自分はどれだけ“日本”を知ってるだろう？」そんな事をふと感じることはありませんか？ “ふるさと・日本”にも是非訪れてみたい魅力溢れる未体験の街が沢山ありますよね！ 今回案内人を務めて頂くのは、**近鉄インターナショナル・シカゴ支店の畑尻 郷（はたじり・あきら）**さんです。瀬戸内海に浮かぶ“小豆島”の魅力を紹介して頂きます。

### 小豆島万歳！

文・写真：畑尻 郷（はたじり・あきら）  
協力：近鉄インターナショナル・シカゴ支店



めん”。このそうめんが普通のそうめんとは全く食感が違い、上質の中華麺を食べている様で、バツグンにうまい。昨晚の讃岐うどんも素晴らしかったが、この辺りは麵に関しては素晴らしい技術を持っていることを実感した。

寒霞溪から海沿いに向かってバスに乗る。小豆島といえば「二十四の瞳」。映画化された時に撮影舞台になったところが現在、**映画村**にあって、昭和の初めの小豆島の風景に設定してある村内は、とてつもなく懐かしい感情を呼び戻す。涙が出て来る程だ。「癒される」というのを実感できる瞬間だ。



帰りがけに小豆島の主要産業である醤油工場を見学していく。**マルキン醤油記念館**では醤油がいかに醸造されていくかを直接工場員が説明してくれる。小豆島の人は小豆島産の醤油以外は使わないという徹底ぶりがある。実際、甘みをほのかに感じる**小豆島醤油**はどんな料理、食材にも合うとのことと、記念館の外ではなんと、「**醤油ソフトクリーム**」。これはどうかと思いきや、なんとバツグンに美味い！醤油とアイスクリームがこんなにも合うものなのかと、感動してしまった。



ホテルに戻り温泉に行く。ホテルオリビアンは“**オリビアン**の湯”という温泉も引いて、24時間いつでも利用できる。露天風呂は瀬戸内海を臨みながらゆっくりつかれる。このホテルの自慢はなんとといってもレストランだ。**いままでクレームは一切受けたことがない料理**は、懐石や寿司、フレンチ、そして鉄板焼きまで色々楽しめる。

また朝食は焼きたてのパンから、小豆島そうめん、**オリーブ**の漬物など、この島ならではのメニューが山海を問わずにドーンと食べ放題だ。

最近疲れていて、なんか苛々しているなど考えているアナタ！ 次の日本行きに3泊余計に時間を取って下さい。本当の意味での「くつろぎ・やすらぎ」がこの島にはあります。もう中西部では「小豆島はどこ？」なんていえないし、いわせません！ どんどん小豆島へ行きましょう！  
**「小豆島万歳！」**

成功したことで、**オリーブ**の島の異名が全国的に知られている。また、壺井栄原作の「**二十四の瞳**」の舞台と言えば、わかる方も多いだろう。

シカゴからは関西新空港へ入るのが良い。関西新空港行きのユナイテッド便に乗り込む。約13時間の行程だ。関西新空港に近づき着陸態勢に入ると、穏やかな瀬戸内海に子犬の形をした小豆島がはっきり見える。やがて関西新空港に到着、通関を経てバスチケット売り場へ行く。ここから高松行き的高速バスに乗り込む。この関空発高松行きのバスは景色が楽しい。関空を出ると右手に大阪市街、やがて震災から復興した神戸を臨みながら、淡路大橋へかかる。時期によっては丁度夕暮れ時のベストタイムに淡路大橋を渡ることになる。瀬戸内海に落ちる荘厳な夕陽を楽しめる。一度、淡路島でお手洗い休憩をはさむので長時間のバス旅でも安心だ。

早ければ3時間ほどで高松市街に到着する。ここで一泊するのが望ましい。駅前の便利なロケ-

ションにある全日空ホテル高松にチェックインする。夜遅いが、腹も空いたのでタクシーを使って、高松市街へ繰り出す。**日本一の長さとも言われるアーケード**は夜遅くまでやっている店も多い。特筆すべきは「**讃岐うどん**」だ。香川の人はお酒のあとにうどんを食べる習慣があるらしく、遅くまでやっている「**讃岐うどん屋**」は結構ある。夜10時を過ぎてても客が引かない状態だった。もちろん手打ちで、味はバツグン！！

翌日、全日空ホテルをチェックアウトする。歩いて一分もかからないところに高松港はある。**高速船**は小豆島と高松を結ぶ貴重な庶民の足だ。通勤、通学客もかなりいる。一階の通常座席も良いが、**2階席はラウンジ**になっており、ゆったりとくつろげる。なのに、料金は変わらないので、2階席が断然得である。

高松港から約30分で小豆島の玄関口**土庄港**に着く。土庄港にはホテルからのバスが待っていてここから「**ホテルオリビアン**」へと向かう。小豆島を代表するリゾートホテルである。約15分でホテルに着く。ホテルにつくと、ホテルのスタッフがオリーブの冠で歓迎してくれた。アメリカのホテルには中々ない、ちょっと照れくさいが気持ちのいいホスピタリティである。ホテルの部屋は日本のホテルにしてはすこぶる広く、瀬戸内海が前にど〜ん見える。素晴らしい風景である。

少しホテルの部屋でくつろいでから、小豆島観光へ向かう。小さな島だが観光できる場所は沢山ある。その中でも特に“**寒霞溪**”は素晴らしい渓谷だ。頂上から山道をハイキングして下り、**ロープウェイ**で再び山頂へ戻るのがお手軽ルートだ。途中、様々な形をした岩や、木立が目を楽しませてくれる。私は幸運にも二ホンザルに遭遇した。頂上の食堂で偶然食べたのが、特産の“**小豆島そう**



**小豆島ってどこ？** 実際、小豆島と言われてその場所が正確に言える人はどのくらい居るだろうか。恥ずかしながらかくいう私も瀬戸内海の島というところまでで、それ以上は答えられなかった。突然、業務命令でそこに行って、色々調べてこいとのことなのである。正直な話、ちょっと気乗りしない感じだった。しかしこの企画をした小豆島サイドの人は「是非、アメリカの人に来て欲しいんです。一度来たら絶対気に入ります。」その熱意に応じて、私はシカゴを発った。

香川県に属する小豆島は瀬戸内海で淡路島に次いで2番目に大きく、周囲126km、人口約3万4千人の温暖な気候と穏やかな風光の美しい島だ。オリーブ栽培が日本で始めて

